

伊丹福音ルーテル教会 ファミリー礼拝のしおり

2022年9月18日

前奏

招きのことば：詩編 51 編 17 節

牧師： 主よ、わたしのくちびるを開いてください

会衆： そうすればわたしの口は、あなたのほまれを告げるでしょう

一同： 父と、御子と、聖霊の神に、栄光が、
はじめにそうであったように、今も、そして、とこしえまでも
ゆたかにありますように。アーメン

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

天と地と、それに満ちるもののすべてをおつくりになって今もすべおさめておられる神様、私たちはあなたの赦しと招きによって、こうしてあなたに祈ることができます。ありがとうございます。あなたは私たちを決して見捨てず、決して見放さないとおっしゃってくださいました。今週もお約束の通りに私たちの罪を赦して下さって、私たちが隣人に役立って歩む新しいいのちを歩むように導いてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：テモテへの第一の手紙 2章 1-7 節

そこで、まず第一に勧めます。願いと祈りと執り成しと感謝とをすべての人々のためにささげなさい。王たちやすべての高官のためにもささげなさい。わたしたちが常に信心と品位を保ち、平穏で落ち着いた生活を送るためです。これは、わたしたちの救い主である神の御前に良いことであり、喜ばれることです。

神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。神は唯一であり、神と人との間の仲介者も、人であるキリスト・イエスただおひとりなのです。この方はすべての人の贖いとして御自身を献げられました。これは定められた時になされた証しです。わたしは、その証しのために宣教者また使徒として、すなわち異邦人に信仰と真理を説く教師として任命されたのです。わたしは真実を語っており、偽りは言っていません。

旧約聖書朗読：列王記上 8章 26-30, 56-60 節

「イスラエルの神よ、あなたの僕、わたしの父ダビデになさった約束が、今後も確かに実現されますように。神は果たして地上にお住まいになるでしょうか。天も、天の天もあなたをお納めすることができません。わたしが建てたこの神殿など、なおふさわしくありません。わが神、主よ、ただ僕の祈りと願いを顧みて、今日僕が御前にささげる叫びと祈りを聞き届けてください。そして、夜も昼もこの神殿に、この所に御目を注いでください。ここはあなたが、『わたしの名をとどめる』と仰せになった所です。この所に向かって僕がささげる祈りを聞き届けてください。僕とあなたの民イスラエルがこの所に向かって祈り求める願いを聞き届けてください。どうか、あなたのお住まいである天にいまして耳を傾け、聞き届けて、罪を赦してください…」

「約束なされたとおり、その民イスラエルに安住の地を与えてくださった主はたたえられますように。その僕モーセによって告げられた主の恵みの御言葉は、一つとしてむなしいものはな

かった。わたしたちの神、主は先祖と共にいてくださった。またわたしたちと共にいてくださるように。わたしたちを見捨てることも、見放すこともなさらぬように。わたしたちの心を主に向けさせて、わたしたちをそのすべての道に従って歩ませ、先祖にお授けになった戒めと掟と法を守らせてくださるように。主の御前でわたしが祈り求めたこれらの願いが、昼も夜もわたしたちの神、主の御もと近くに達し、日々の必要が満たされ、この僕と主の民イスラエルに御助けが与えられるように。こうして、地上のすべての民が、主こそ神であって、ほかに神のないことを知るに至るように。」

讚美歌 461 番 主われを愛す

- 1 主 我(われ)を愛す、主は強ければ、我(われ)弱くとも、恐れはあらず。
※わが主イエス、我が主イエス、我が主イエス、我(われ)を愛(あい)す。
- 2 我が罪のため、栄えを捨てて、天(あめ)よりくだり、十字架につけり ※
- 3 御国(みくに)の門を、開きて我を 招(まね)きたまえり、いさみて昇(の)ぼらん。※
- 4 我が君(きみ)イエスよ、われを清(きよ)めて、良き働(はたら)きを なさしめたまえ。※

説教：「私たちを見捨てることも見放すこともなさらぬ」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

何かするときに迷うことはないですか。こうしたらいいのかな、いや、こっちの方がいいのかな、といろいろ考えて、結局勢いで決めてしまったり、人の意見だけで決めてしまったり、決めた後も悩んだり、ということはないでしょうか。私たちにはそんなとき、神様に祈ることができます。

祈り、と言いますと、え、そんな日常のことも祈っていいのでしょうかと遠慮しておられることはありませんか。そんな天地を作られた神様に、ちっぽけな自分の個人的な問題について祈ってもいいのでしょうか、そんな神様からみたらとても小さなことのために祈ってもいいのでしょうかと感じておられませんか。

または、そんなときにはむしろ祈るべきではない、と考えている方もおられるかもしれません。たとえば、祈りは自分の責任から逃げて、神様に丸投げする無責任で甘い考えではないかということ。祈ったら自動的に、また奇跡的に正しい判断ができるなんて、考えがあまりにも甘すぎるということです。さらに、普段はそれほど熱心ではないのに問題があったときにだけ祈るなどということは、聖書の都合のよい解釈ではないのか、祈りと言うものはもっと高尚なものであって、ちょっと困ったときに神頼みするというのは不真面目なこと、それは信仰の

本来あるべきすがたではないという判断です。ここまですらなくても、何かこんな風に抵抗を感じている方もおられるかもしれません。

少し長くなるようですが、祈りを人間科学の説明で考える人もいます。確かに祈りには、精神的な効果があるかもしれないが、しかしそれは神様が聞いてくださっているのではない、という意見です。こんな説明です。祈るということで、心は問題から神様の方に向けられます。悩んで心がパニック状態のときに、祈ると少しでも心の余裕を持つことができます。ものごとを全体的に、また客観的に見ることができ、よい判断ができるようになることがあるけれど、あくまでもそれは精神的に説明できる効果であって、実際に神様が祈りを聴いてくれたということではない、という説明です。皆さんはどうお考えでしょうか。

先週の子ども礼拝では、旧約聖書からのお話でした。イスラエルの国に偉大なダビデという王様がいました。ダビデ王はよく祈りました。神様はダビデ王によく語られました。またその子ソロモンもよく祈りました。神様はソロモンにもよく語られました。困ったときに祈ることも大事なことです。困っていない普段の時も、お祈りすることができます。お祈りするときに私たちは自分のことを神様に知っていただきます。それだけではなくて、神様が私たちにご自分のことを知らせてくださいます。ダビデ王やソロモン王のときはまだイエス様が来られる前でしたが、今は私たちはイエス様の名前によってお祈りできます。神様は私たちに答えて、聖書の言葉を通して語ってくださいます。

ダビデ王のお話はイエス様のお生まれになる前の、旧約聖書のお話です。ダビデ王はたくさんの戦いに勝って、イスラエルの国をつくりました。四十年間王様でしたが、おじいさんになったとき、ダビデ王の跡継ぎはだれか、次の王様は誰なのかということになりました。アドニヤという人が思い上がって、私が王にふさわしい者です。私が王になります、と言いました。知り合いの祭司と将軍に頼んで、王にしてもらいました。しかし、よく神様に祈っていたダビデ王には、神様が前から、あなたの跡継ぎはソロモンです、と示しておられました。それでソロモンがほんとうの王様になって、アドニヤは退けられました。

ソロモンは父ダビデ王を継いで、立派な王様になりました。ソロモンも祈りの人でした。ソロモンは神様から知恵をいただきました。神様の祝福を受けたソロモンの国は豊かになりました。ダビデ王は生きていた時に、祈りの中で神様から、エルサレムに神様を礼拝する神殿を建てるように、とお告げを受けていました。ただし、ダビデ王は準備をするだけで、次の王様のソロモンが実際に神殿を建てるように、というお告げでした。イスラエルの民はこれまで荒れ野をさまよっている間、移動先にテントを張って神様を礼拝しました。放浪は終わり、エルサレムに定住しますから。ここで神殿を建てなさい、と言われました。民の新しい時代の始まりです。

ソロモン王はお父さんのダビデ王から聞いていた神殿建設という大きな使命を、王様になって四年目に始め、七年をかけて完成しました。建築工事の間にもソロモン王は祈りました。そこ

で神様からみ言葉を受けました。「ソロモンよ、あなたがわたしに従って歩むなら、わたしはあなたのお父さんのダビデに約束したことを果たします。わたしはイスラエルの人びとの中に住みます。そしてわたしはわたしの民イスラエルを決して見捨てることはしません。」

ソロモン王は、神殿を建て、宮殿を建て、神殿の中に置くすべての備品を完成して、イスラエルの民と一緒に集まりました。そこに雲が満ち溢れました。神様がそこで栄光をおあらわしになりました。今日お読みいただいた列王記上八章のみ言葉は、そのときのソロモンの祈りです。

ソロモン王は三つのことを祈りました。感謝と信頼と願いの祈りです。

第一は、神様にありがとうございます、という感謝の祈りでした。実際に神殿をつくったのはソロモン王でした。しかしソロモン王は、この神殿は実は神様が作ってくださった神殿です、と感謝をしました。そもそも神殿をつくるのは神様の計画でした。それでソロモン王は、かつて父ダビデ王に示された神様のご計画が、今、ついに実現しました、と喜びます。ソロモン王はこの神殿に特別なものを納めました。昔イスラエルの人びとはエジプトの奴隷でした。イスラエルの民は神様によって奴隷から自由の身になりました。モーセが率いてエジプトから脱出したのです。そのとき神様が与えてくださった約束のしるし、契約の箱がありました。荒野の旅が終わり、約束の地に王国を建て、そして今、神殿が完成しました。契約の箱を神殿の一番奥に納めました。ソロモンは民を代表し、これらすべては神様の導きです、と感謝をしました。

ソロモンは自分が苦勞してつくった神殿が完成したとき、神様に感謝をしました。私たちの毎日はいかがでしょうか。毎日、自分で努力して、一生懸命に生きています。しかし、そもそも神様が私たちをお作りくださり、家族を与え、友だちと一緒に勉強する機会も与えてくださって、人々の役にたつための使命も託してくださっていることを忘れがちです。自分でしてきたと思うことは、実は神様の導きとお支えの中にありました。苦しいときだけでなく、普段から、神様の導きに感謝をして、毎日を心豊かに、お祈りをしながら過ごしていきたいですね。

ソロモン王の第二の祈りは、神様のお約束をあらためて思い出す祈りでした。ソロモン王はせっかく神殿をつくったのに、不思議な祈りをしています。神様は果たして地上にお住まいになるでしょうか、天の天も神様を内に納めることなどできません。どんなに立派な神殿でも、そこに本来神様がお住まいになるのはふさわしくはない、とソロモン王は祈りました。そうですね、天地をつくられた方、全歴史の主である方が、宇宙の片隅の地球上のひとつの建物の中に押し込められることはできません。そればかりではありません。私たちのような罪深い者が、圧倒的に偉大で、圧倒的にきよいお方である神様の御前に、どのようにして出ることができるのでしょうか。いったい、私たちはどこで、まことの神様にお祈りができるのでしょうか。

ソロモン王は続けます。神様、どうぞ夜も昼もこの神殿に、このところに目を注いでください、なぜなら、ここはあなたご自身が、ここにわたしの名をとどめる、とおっしゃったところだからです、と祈りました。ソロモン王は知っていたのです。私たちは神様の御前に出ることので

きない者ですが、神様がイスラエルを「わたしの民」と呼んで、モーセを用いて奴隷の地エジプトから民を自由にしました。神様がダビデに語って、エルサレムを都とする王国を建てました。今や神殿を建てたソロモン王に、ここでわたしはあなたがたイスラエルの人びとに出会う、あなたがたを決して見捨てず、見放さない、と言ってくださいました。ソロモン王はこれらのことを神様の確かな約束として受けとめました。ですから、ソロモン王は神様に祈ったのです。私たちには神様を納めるところを作ることにはできません。しかし神様、あなたが私たちを赦して、私たちとここで出会う、ここにわたしの名をとどめる、とおっしゃってくださいました。私はあなたのその約束を握ります。どうか、約束の通り、ここで祈る私たちの祈りを聞き届けてください。ここで祈るなら、あなたのお住まいである天から耳を傾けて、罪を赦し、こたえてください、と祈ったのです。神様はソロモン王やイスラエルの民の祈りを確かに聞かれます。なぜでしょうか。それは、わたしはあなたがたの祈りを聴く、とおっしゃった神様は、その約束に真実なお方だからです。

一体私たちは何者なので、天地を作られた、きよいまことの神様に今日も祈ることができるのでしょうか。何を根拠に、わたしのようなものの祈りが神様に確かに聞かれると確信できますか。それはソロモン王と同じです。聖書は神様が私の罪を赦すために、独り子のイエス様を人としてお送ったと記しています。イエス様は私のかわりにきよい生涯を送り、また裁かれるべき私の罪の性質のために身代わりに十字架にかかって死んでくださいました。そして私が神様の子どもとして、神様に愛されて、神様との関係に育てられるように、イエス様は復活してその命を与えてくださいました。洗礼のときに、神様は私の名前呼び出し、父と御子と聖霊の責任においてイエス様の救いをお与えくださいます。私たちは聖霊をいただきます。神様のことを、お父さん、と呼びます。これらすべてを神様がしてくださって、喜んで私に授けてくださいます。これは神様の約束です。ソロモン王が祈ったように、私には神様に祈りを聞いていただく価値はありませんが、私たちは聖書に示されている神様の確かな約束によって、神様の子どもとされて、神様を、天のお父さま、とはばからずに呼んで祈ります。神様の約束です。

ソロモン王の第三の祈りは、神様へのお願いでした。それはソロモンが王として、民のために祈った祈りです。私の民も、異国人もあなたを知って、あなたを恐れ信頼し愛する者となるように、私の国民が失敗をしても、罪を犯しても、また捕虜になっても、どうか、私たちが神殿に向かって祈るとき、あなたのお住まいである天にいましてお聴きください、民の罪を赦し、正しく裁き、民が敵を赦し隣れんで歩む民となるように、導いてください、と祈りました。

私たちはイエス様によって神様の子どもとされました。神様の子どもとしての働きが託されています。人々の役に立つ人生を送り、人々共に幸せを作る生涯です。神様から預かったこの尊い使命を果たすことができるように、私たちは神様に祈り続けます。そして、罪を犯してしまっても、失敗をしてしまっても、迷いの中で身動きできなくなっても、私たちはイエス様の名前によって祈ることができます。天におられる神様は親しくあなたの祈りを聞いて、イエス様

によってあなたのすべての罪を赦し、あなたが使命を果たせるように助け、あなたを陥れる人がいたとしても、あなたが彼らを赦して、彼らも神様を知って祝福を受けるように祈る全く新しいのちを歩むようにと、日々お導きくださいます。ソロモン王は三つの祈りをしました。この一週間私たちも、神様に感謝をし、神様の約束を信じ、自分に与えられた使命を果たして人々の祝福を願う願いを、イエス様のお名前によって確信をもって神様に祈って歩みましょう。

イスラエルの全共同体と一緒に集い、祭司たちは至聖所に契約の箱を安置したら栄光の雲が神殿に満ちた(列王上8:10)。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讚美歌 312 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 　いつくしみ深き 友なるイエスは 罪とが憂いを 取り去りたもう
　心の嘆きをつつまず述べて などかはおろさぬ 負える重荷を
- 2 　いつくしみ深き 友なるイエスは、われらの弱きを 知れて憐れむ。
　悩みかなしみに 沈めるときも、祈りにこたえて 慰めたまわん。
- 3 　いつくしみ深き 友なるイエスは、かわらぬ愛もて 導きたもう。
　世の友われらを 棄て去るときも 祈りにこたえて、労わりたまわん。 **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊のおお御神に、ときわに絶えせず み栄えあれ、み栄えあれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

後奏